

## 第22回日本サイコネフロロジー研究会に参加して

今回のメインテーマは“スタッフのメンタルヘルス、再び～より良い透析医療はステキなスタッフから～”でした。ステキ（素敵）なスタッフとは一体どのような人でしょうか。皆さんのまわりにステキなスタッフはおられますか。特に模範生でなくても楽しそうに（ゴルフではflow又はzoonに入る、日本語では“ハマル”とでもいいでしょうか）働かれている人を見掛けませんか。今透析医療でこういったテーマを掲げざるを得ないように透析現場では問題が重積しているといわれています。あなたはステキな医師ですか、ステキなナースですか、ステキな技士ですか・・・、いつもステキな笑顔で患者さんを迎え入れておられますか。職場や症例を通したステキなスタッフになるための工夫が報告されていました。

そこで感じたことは、どこも同じような悩みを抱えているなあ～、私達はどうしているのだろうか、多くの問題を抱えながらも日々の問題処理に慣れてしまって、仕事の流れ（work flow）は確かでも、果たして心の流れ（mind flow）はどうなのかと反省させられます。皆さんはいかがですか。因みに、今回の最優秀賞は「当院看護師が感じる“医師とその間のジレンマ”から脱出の試みー看護ジレンマ対応ガイドマップを用いてー 腎愛会だてクリニック」でした。

〔※ジレンマ（dilemma）とは、二つの相反することがらの板挟みに陥って、  
どちらも決められずに進退きわまること。〕

私は演題を直接聞けませんが、まず自己の看護ジレンマを客観視することから始め、患者さんと医師との間で生じた看護ジレンマは放置せずに、客観的に整理し、患者さんの選択権を遵守したゴールを目指す。ステキな透析医療には医師と看護師の“質の高い”コミュニケーションが必要不可欠である。といった内容でした。発表施設の背景は分かりませんが、常に顔と目線を合わせた対話を繰り返すことによるコミュニケーションの必要性が一番求められているのではないのでしょうか。

ドロッカーは顧客は常に外にいと論じていますが、透析現場ではそれ以前に内部顧客（職員）と環境の問題で悩んでいるようです。その道のプロフェッショナル（ステキ）になるには“**約束を守る、嘘をつかない、他人をいじめない**”を基本にお互いのコミュニケーションが99.9%求められるとも述べています。

前回（21回）で最優秀賞に選ばれた私共はまゆう会の“聴きたい語りたから始まった透析患者さんの語りの会”の受賞記念講演を末次顕幸君が立派にされ、沢山の質疑と継続への励ましを受け好評でした。質問の一つに“語りの会のメンバーに看護師さんがおられません”とありました。私も気になりますが、透析医療は各分野の総合医療と考えれば別に不自然ではありません。一般的にはナースが透析現場の主役であることには変わりはありません。語りの会のメンバーは通常の仕事の合間に楽しく(?)頑張ってくれていますが、彼等は確実にステキなスタッフへ成長しています。傍らで見ているだけでもいいのではないのでしょうか。同時受賞の彦根市立病院発表“認知症

との関わりー患者さんの自尊心を尊重して”は90才独居老人の認知症への看護介入とその後透析医療へのスタッフの影響を立派にまとめられていました。

次回（第23回日本サイコネフロロジー研究会）は千葉社会保険病院主催で“透析困難症”がテーマです。ことに一人暮らしの患者さんの院内院外での問題など発表されてはいかがでしょうか。

尚、受賞に際してクリスタル製のステキなトロフィーを頂いております。

#### 「語りの会」メンバー

末次 顕宰

柴崎 由季

笹尾 舞

稲富 昇

杉 昌弘

清原 綾子

江口 健太郎

市丸 喜一郎

(メンバー募集)



平成 23 年 6 月 2 日

理事長 市丸 喜一郎